

本県高校中退率1位

小中不登校2位 いじめ把握540件

文部科学省が16日発表した2013年度の児童生徒の問題行動調査で、県内の高校中退率は2.4%(全国平均1.7%)で全国で最も高かった。小中学生の不登校も千人当たりの

出現数が14・2人(同11・7人)で全国ワースト2位、暴力行為の発生率7.3件(同4.3件)は5位だった。高校中退者は2年連続のワースト。今回から調査対象に加わった

通信制が31人と多く、県教委高等学校課は「高校への進学率が98%を超える中、多様な生徒に対応し切れていない部分があるかもしれない」とする。一方で全日・定時制

(369人)は前年度から79人減った。県教委は中退率が高かった10校を重点支援校に指定。補習など進級対策に力を入れており、その成果が出たとみられる。小中学生の不登校は

前年度比44人増の802人。中学生の1人減とは対照的に小学生は45人増えた。「中学減、小学増」は近年の特徴で、県教委が把握している公立校だけでみると、中学生(今回523人)は06年度(719人)以降減少傾向にある。一方で、小学生(今回179人)は3年前から増え続けている。

暴力行為(前年度比24件減の364件)も近年、小学校で増えている。公立小学校では09～11年度34～44件で推移していたのが12年度は100件に急増。13年度も92件だった。私立を

含む全体の形態別では、生徒間暴力が最多の299件で、器物損壊170件、対教師暴力83件など。

いじめの把握件数は小学校183件、中学校311件、高校37件、特別支援学校9件の計540件で、前年度の689件から大幅減となった。千人当たりの把握件数は6・9件(同13・4件)で全国25位。形態別では小中高とも「冷やか

し、悪口や脅し」が多で、中学生では「ひどくたたかれる」、高校生では「パソコンや携帯電話などでの誹謗(ひぼう)中傷」が上位に入った。

いじめ把握は全国的に、学校ごとのばらつきがあると言われる。

県教委はいじめの掘り起こしを進める研修を行っており、人権教育課は「認知件数の減少はいじめ自体が減っている」と捉えることができるかもしれない。一方、「(潜在している)いじめを本

当に掘り起こせているかの検証も必要だ」としている。

(山崎一城)